

# 美原区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
美原区読書習慣形成事業		美原区役所企画総務課			
事業目的	事業効果	活動指標	R2	R3	R4
子どもの読書習慣の形成に向け、子どもが本に触れる機会を増やすことで、区域の読書環境を整備する。	子どもが少しの時間でも本を手にとることのできる場を身近に設けることで、本を読むことの楽しさを知り、ひいては読書習慣が身につくことが期待できる。 家庭にある本の提供を区民に協力いただき、区域の読書環境を整備することで、改めて読書の大切さが広く区内に浸透することが期待できる。	収集した本の数	1,613冊	1,933冊	1,601冊
①妥当性		②協働の視点		③インパクト	
○	美原区教育・健全育成会議の提言に基づいて実施した事業であり、美原区ビジョン2025の基本方針3に掲げている、みんなが参画し主体的に地域課題(区内に書店がなかった)を解決するための事業でもある。	◎	市民から寄贈してもらった本を子どもに読んでもらう美原まちなか文庫を維持させるには、市民の協力が必要である。また、本の回収においては自治会や地域の関係団体、大型商業施設の協力を得ている。	◎	美原まちなか文庫は子どもが本に触れられる身近な場所として区内外から注目されている。 新たに大型商業施設内の行政連携コーナーに設置できたことやキッズスペースでの読み聞かせ会を行ったことで、区外からの来訪者にも美原区の取組を発信できている。
④効率性		◎ 限られた冊数の中、各文庫に置いてある本を、年2回、ローテーションしている。また、各文庫の担当者から聞き取りを行い、子どもの興味関心に基づく配架に加えて、施設内の子どもが集まりやすい場所にマガジラックを新たに設置し、本を手にとってもらいやすいよう努めている。			
⑤自立発展性		総合評価			
△	美原まちなか文庫は区内9か所に設置しており、寄贈ボックスは美原区内の地域会館にも設置しているため、地域の協力を得ながら、行政が中心となって全体を取りまとめる必要がある。	◎ 市民からの本の寄贈により運営する美原まちなか文庫は開始してから6年目となったが、令和4年度も約1,600冊の本が集まり、累計冊数は1万1千冊に到達した。また、今年度は大型商業施設との連携により行政連携コーナーへの美原まちなか文庫の設置や、美原図書館との協働で読み聞かせ会を開催することができた。			
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	大型商業施設の開業と同時に施設内の行政連携コーナーにも新たに美原まちなか文庫を設置することができ、これまで以上に多くの方に知ってもらえることになった。これからも事業を継続するために、ブックスタンドなどによる本の配架方法の工夫や各文庫の蔵書数を調整するなど改善を進めていくことが必要である。 また、市民等に対して引き続き本の寄贈を呼び掛けるとともに、絵本の読み聞かせ会を継続的に開催し、多くの子どもに美原まちなか文庫を利用してもらえるようにPRしていく。				